
コロナ禍の平和と企業の役割

発表者：尹熙竣



- 第4次産業革命がけん引したグローバルゼーションにより、従来の生活圏である国家の枠を超えた資本、物質、情報、人々の交流が盛んになり、「世界が一つ」なる明るいフレームを作ってきた。
- 半面、グローバル化によって、富と権力の両極化がますます進み、国家の概念さえ弱くなったのも事実である。
- 交通網の目覚ましい発展と拡大は、コロナウイルスのパンデミックを加速化させた。
- コロナウイルスは人間一人一人に対し平等なのか、もし不平等であればポストコロナ時代は不平等と葛藤が広がる社会になる可能性が高い。

- 従来の国家は、敵の攻撃や暴力又はテロから自国民を保護する伝統的な安保を維持してきたが、これからは国境を越えたウイルスや気候変化、災難などから国民の健康と生命を保護する義務が強化される。
- その意味で平和の概念も国家から国民個人個人に合わせた概念に再成立しないといけないタイミングにきている。
- 平和学のお父さんと呼ばれるヨハン・ガルトゥング博士は平和学を「研究するもの」と「実行に移すこと」を分けて実践してきた。
- コロナ禍の厳しい環境をどのように解決し生かしていくのか、どうすればそれらが私と周辺に健康な影響を及ぼすのかを考え、行動しないといけない。

- 我々企業家は国民一人一人の健康と安全な生き方に役に立つことに集中している。
- 世界ではコロナウイルス対策と解決のため、診断キットやワクチンの開発、医療ボランティア活動、社会弱者の支援、寄付などに力を注いでいる企業が多く存在する。
- 小松コリアがコロナ禍に開発された商品が、防疫現場でどのように活躍されているのかを紹介したい。
- M09型スピードドアは、新型コロナウイルスに代表されるRNAウイルスやばい菌の殺菌が可能な機能も搭載されているため、コロナ禍の防疫、衛生関連施設に多く納入されている。



防疫ドア
事務室の発熱チェックブース



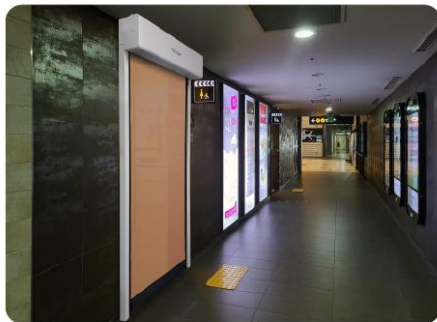
防疫ドア
文化祭の発熱チェックブース



防疫ドア
展示会の発熱チェックブース



病院ドア
ヤンジュYES病院の呼吸器クリニック



エチケットドア
映画館のお手洗い



インテリアドア
一般家庭の室内ドア

<https://youtu.be/B4oEcADMLPk>





ご清聴ありがとうございました。

